CP25-5329.30

BEATLES

Ų

**WTHE BEAT** 

## The **BEATLES**

## THE BEATLES"

This band score features the 29 songs from the original Beatles CD "THE BEATLES" BACK IN THE U.S.S.R./DEAR PRUDENCE/GLASS ONION/OB-LA-DI, OB-LA-DA/ WILD HONEY PIE/THE CONTINUING STORY OF BUNGALOW BILL/ WHILE MY GUITAR GENTLY WEEPS/

HAPPINESS IS A WARM GUN/MARTHA MY DEAR/I'M SO TIRED/BLACKBIRD/PIGGIES/ ROCKY RACCOON/DON'T PASS ME BY/WHY DON'T WE DO IT IN THE ROAD/I WILL/ JULIA/BIRTHDAY/YER BLUES/MOTHER NATURE'S SON/ EVERYBODY'S GOT SOMETHING TO HIDE EXCEPT ME AND MY MONKEY/

SEXY SADIE / HELTER SKELTER / LONG LONG LONG / REVOLUTION NO.1 / HONEY PIE / SAVOY TRUFFLE / CRY BABY CRY / GOOD NIGHT

Shinke Music Pub.Co.,LTD.



BACK IN THE U.S.S.R. / MyD. AV. H.U.S.S.R. 4 DEAR PRUDENCE/Frp.Ju-FDA 11 GLASS ONION/グラス・オニオン 18 OB-LA-DI. OB-LA-DA/オブ·ラ·ディ,オブ·ラ·ダ 22 WILD HONEY PIE/DTNHINT 27 THE CONTINUING STORY OF BUNGALOW BILL/コンティニューイング・ストーリー・オブ・パンガロウ・ビル 30 HAPPINESS IS A WARM GUN/Nyビネス・イズ・ア・ウォーム・ガン 43 MARTHA MY DEAR/マーサ・マイ・ディア 49 I'M SO TIRED/アイム・ソー・タイアード 54 BLACKBIRD / ブラックバード 57 PIGGIES/ビッギース 61 ROCKY RACCOON/ ロッキー・ラックーン 65 DON'T PASS ME BY/HOH-MAR 71 WHY DON'T WE DO IT IN THE ROAD / ホワイ・ドント・ウィ・ドゥ・イット・イン・ザ・ロード 77 1 WILL / アイ・ウィル 80 JULIA/JULIA 84 BIRTHDAY/バーステー 87 YER BLUES / ヤー・ブルース 93 MOTHER NATURE'S SON/マザー・ネイチャーズ・サン 100 EVERYBODY'S GOT SOMETHING TO HIDE EXCEPT ME AND MY MONKEY/ IT/JAFr-Zijyh. + 103 SEXY SADIE/セクシー・セディー 107 HELTER SKELTER/ NUS- 111 LONG LONG LONG /  $\Box > \sigma \cdot \Box > \sigma \cdot \Box > \sigma$  119 **REVOLUTION NO.1**/レボリューション 1 123 HONEY PIE/N=--/177 130 SAVOY TRUFFLE/サポイ・トラッフル 137 CRY BABY CRY/DJT·NTE-DJT 143

GOOD NIGHT / グッド・ナイト 147



トップを飾るのは、ノリのいいロックン・ロール・ナンバー。 この曲のリード・ギターはポールが弾いている。囚の9小節目か らは、ギターはオクターブ・ユニゾン。ハンマリング・オンのタ イミングをうまく合わせないと1つに聴こえない。といっても現 在ではハーモナイザーを使用して1本で代用できるわけだ。間奏 はチョーキングを使ったメロディに準じたフレーズ。ポールはチ ョーキングが好きなようで、出てくる度合いが高い。粘っこいフ レーズが身上だ。特に回の5小節目からはcho & Dの連続で、 息の抜けない展開となっている。リズムは8分音符3つでワン・ パターンとなっている。ベースはポールがギターをプレイしてい るので、ジョンとジョージが弾いている。音色はファズ・ベース に近いもので、あまりフレーズが浮き立っていない。囚の2小節 目のようにスライド、プリング・オフを使った細かいリフが出て <2。。やはりギタリストから見たベースのとらえ方だと思う。コ ーダ・マークの3小節目、コードはBr→Erと変わっているが、こ こはA音でステイしている。ピアノはかなりラフに弾いていて、 16分音符のリフは右手のコードと左手のベース音を交互に弾くと よい。ベース音はへ音記号で書けなかったので、譜面の1オクタ ーブ下と思って結構だ。この曲ではジェット音がかなり登場する が、もし入れられるなら、4小節ぐらいのサスティンをきかせ、 SP×90等のオートパンを使用し、ステレオで出すと、効果は大き い。イントロ、エンディングではぜひ使いたい。コーラスはモロ にビーチ・ボーイズ・サウンド。低音と高音のミックス・コーラ スだ。高音部のファルセットは、きちんとやってもらいたい。ド ラムスはブレイク以外はスネアの2拍、4拍が二重録音されてい る。



© Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only



-











## DEAR PRUDENCE

Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

女優のミア・ファーローの妹、プルーデンスをモデルに書いた ナンバー。イントロとエンディングのギターIIが印象的。ここの アルペジオは押さえ方は難しくないのだが、右手のピッキングに くせがあるので反復練習が必要である。とくに1拍目が5弦開放 から出るので注意。このギターIIとIIIは6弦開放はDにチューニ ングされていて、タブ譜もそれに合わせてある。6弦をDに落と した時は、アルペジオであまり強くピッキングすると、弦の振幅 が大きくなり、音がゆれてしまうので気を付けたい。回からはギ ターIVが登場し、オクターブ・ユニゾンでダビングされている。 現在ではハーモナイザーの使用により、1本のギターで代用でき る。回の3小節目3拍目にスライドが出てくるが、これは大事に 弾きたい。その後のチョーキングも粘っこく。回、回のギターは 重いノリで攻めるとよい。ベースは囚の2×以降のフレーズガカ ッコいい。グリスとスタカートをうまく使い、ポールらしいパタ ーン化されたフレーズ。D→C→B→B・とベースが落ちていくの が明確にわかる。ドラムスは、囚が8ビート、回は16ビートで/\ イハットを刻んでいる。なんといっても圧巻なのは、回のリズム・ キープをしっかりしながらのドラム・ソロ。タム、スネアを効果 的にちりばめたフレーズはとてもいかしている。2小節目の1拍 目はハイハットを強めに叩いてアクセントにしている。ここは、 リズムをハネ気味(『=\_い))にとるとコピーしやすい。リンゴの 手癖によるものなので、ちょっと叩きにくい場所もあると思うが、 そういう時はフレーズの頭を左手、右手を入れ替えてみたりして、 工夫してトライしてほしい。



© Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only













Fade Out



ビートルズの曲名を歌詞の中に織り込んだビートルズのヒスト リー・ソング。コード・バッキングはギターIIの12弦アコーステ ィック・ギターが中心。ギターIは、リズム・バッキング。ハイ・ ポジションがあるので、左手をキッチリ押さえてピッキングしよ う。リズムは2×だけちょっと変化をつけていて、あとは同じ。 ペースはリッケンバッカーの音が強く出されている。いくらピッ ク弾きとはいえ、このサウンドを出すのは難しい。ミドルをカッ トし、トレブルとベースを上げると似た感じは得られる。8分休 符をうまく使ったフレーズでリズムは重たく出す事を念頭にプレ イしよう。ドラムスは囚にスネアの位置が面白いところがあるが、 ほぼオーソドックスな8ビートだ。イントロ、その他にスネアの フラム打ちが出てくるが、普通のフラムより間隔は長い。©の10 小節目などは月ヶ月ヶに近いリズムである。D.S.後の囚の4小節

目から出てくるのはポールの吹くたて笛。こういう所にイギリ のバンドらしさが出てくる。回のストリングスはコード・ハー ニーをアンサンブルでとらえ、コントラバスガロー・パートを いて、アクティブなニュアンスを出している。回はストリング だけの部分で、ハーモニーガセブンス音を強調して不気味な感 を出している。回の1×はちょっと書ききれなかったガ、コント ラバスガあまり動かず、コードのルート音をパッシングを加えて 追う展開になっている。ピアノは回、回とはいっているが、コー ドを補佐する形。1カッコ、2カッコでブレイクする時、他の 器よりちょっと長く伸ばしていて、その存在をアピールしている この曲は演奏は簡単だが、ストリングスをいかに表現するかが、 キー・ポイントとなっている。





(C) Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only







Repeat & Fade Out



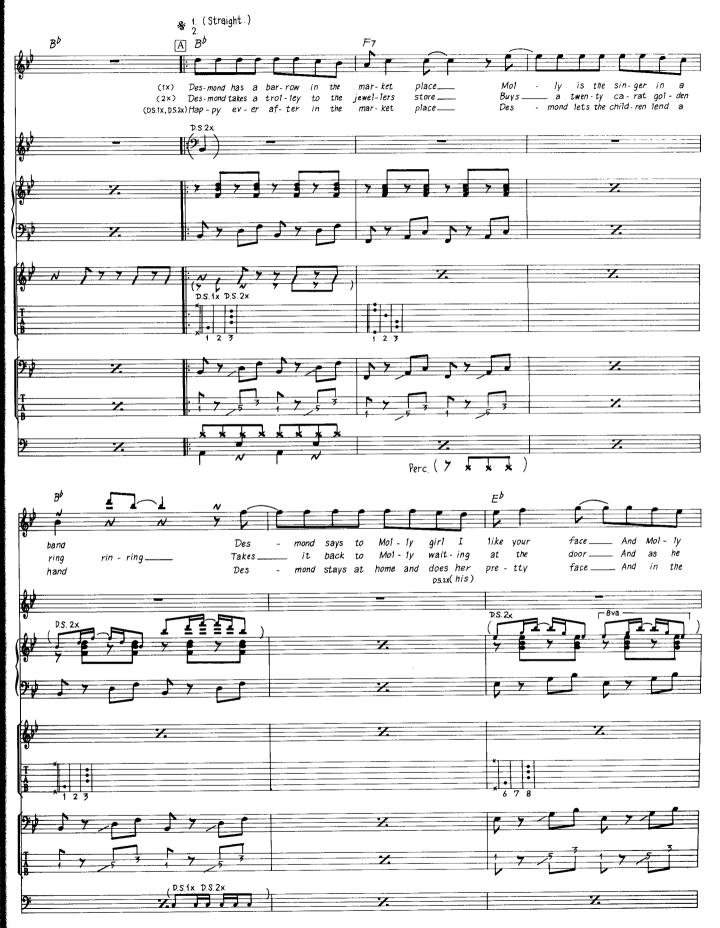
この作品の中で最もポピュラーな曲の1つ。楽しい雰囲気ガよ く現れている。ギターとピアノで8分裏のリズムを強調し、レゲ 工調の曲に仕上がっている。ピアノはポールガ弾いていて、バッ キングに徹しながらも、いいフレーズをちりばめている。イント 口前のピアノ・ソロや、D.S.2後の囚の4、6小節など、これを 抜いたら曲が成立しないほどウェイトの高いフレーズがある。ギ ターもリズム中心のサイド・ワークだが、囚と回ではパターンを 変えており、工夫の跡がうかがえる。ピアノとのリズムのからみ ガ興味深いものとなっている。さてこの曲のメインとなっている のがペースだ。単純なパターンのくり返しだが、実際ポールのよ うなうねりを出すのは難しい。2、4拍目の音へのグリスが決め 手となろう。なお、よく聴いてみると、囚、回ではペースがオク

22

ターブ・ユニゾンされている。つまりこの表記音の1オクターブ 上の音ガダビングされているわけだ。ビートルズはギター・リフ のオクターブ・ユニゾンを得意のパターンとしていたが、ついに ペースに及ぶとは…。こういう事ができるようになったのも、録 音状況が良くなった事も要因の1つだ。イントロを聴くと、1オ クターブ高い音域からはいって、3小節目から低パートもはいっ てくるのがよくわかる。ドッシリと重厚感のあるフレーズに聴こ える訳は、こんなところにあったのだ。ドラムスは囚の4小節目 にあるようにフロア・タムだけダビングしている。コーラスとプ ラス・セクションも重要なサウンドとなっている。楽しげなS.E. (笑い声、パーカション)などもできるだけ書いておいたので参 考にしてほしい。



(2) Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, Englan Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only









## WILD HONEY PIE

ワイルド・ハニー・バイ Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

こんなお遊び的な曲ができるのもトータルなアルバム作りがで きるからこそである。演奏の方はポールのワンマン・バンド・プ レイ。とぼけた味がよく出ている。ボーカルは真ん中のパートだ け普通の声で歌っているがハイ・パートとロー・パートはビブラ ートを大げさにかけて歌っている。特にハイ・パートは、ファル セットではあるが強力に出していい。最後の小節は今まで3パー トのハーモニーをつけていたのが、バラバラに動き出しフェイク した感じを出している。ギターIは12弦アコースティック・ギタ ーで弾いている。大きく分けるとコード・ストローク部分とアル ペジオ部分とに分けられる。押さえ方も難しくないので、アルペ ジオもしっかりピッキングしてほしい。ギターIIは音域的にIよ りも1ボジション高いところで弾いている。奏法は、スライド・ バーを用いて、それを小刻みにビブラートをかけながらフレーズ を弾くと、このようにフニャフニャしたニュアンスが出てくる。 スライド・バーを用いるために、1~3弦をオープンF<sup>\*</sup>,チューニ ングにしている。すなわち1弦をE(変わらず)、2弦をA<sup>\*</sup>(半音下 げ)、3弦をF<sup>\*</sup>(半音下げ)としているのである。これで13フレッ トを弾けばGr、11フレットでFrとなるわけだ。コードがセブンス・ コードしか出てこないので、コード・トーンのセプンスの音を1 弦にもってくれば、すぐこのポジションでコード・ハーモニーが 得られるわけだ。タブ譜もこのチューニングをもとに書いてある。 ドラムスはバス・ドラムをずっと4拍で刻み、その上のポジショ ンはアコースティック・ギターのポディを叩き、エコーを深くか けた音。



C Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only







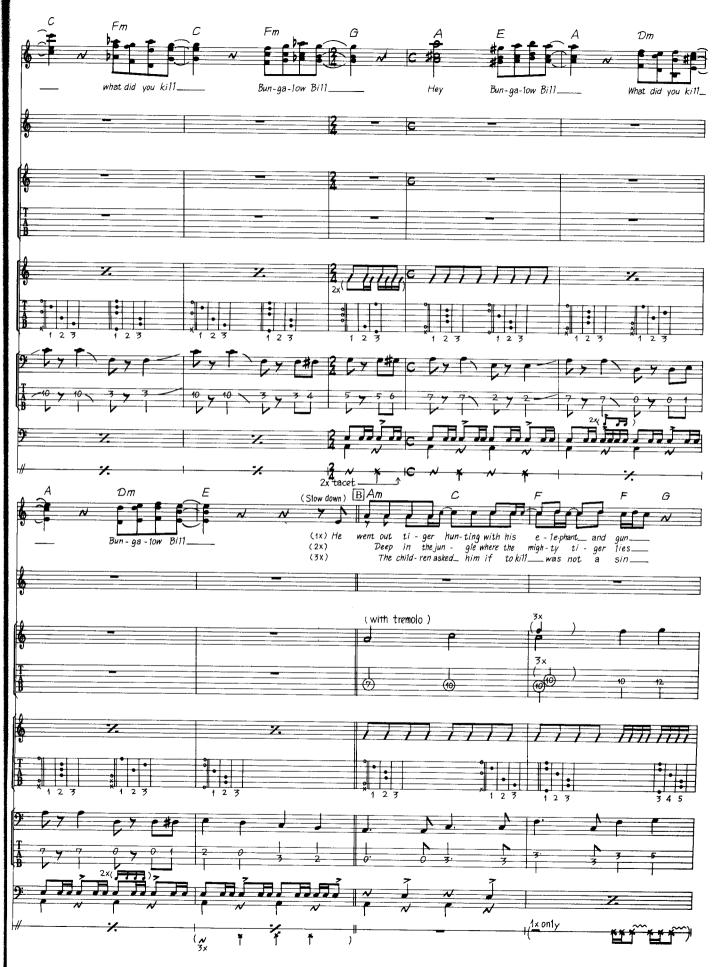
ルイス・キャロルの童話を思わせるノベルティ・ソング。3コ ーラス目に出てくる女性の声はヨーコ。囚前のギターはスパニッ シュ・ギターのテクニック。3小節目のギターは1小節目のダイ アグラムを参考にするように。回のギターIはマンドリンのトレ モロ奏法に近いものである。かなりハイポジションまでいくので、 的確にしかも速度を落とさないでピッキングしなければならない。 ベースはこの曲でも印象的なリフを弾いている。囚の部分がそう だ。ほとんどが2弦においてのプレイで、各ルート音までをグリ スでつないでいる。例外は6、7小節目で2弦開放を弾いている からグリスはできない。1、3拍目をスタカート気味に弾くのが 粘りの出るグリスと対照的になっていい。回の6小節目のA→F へのパッシングもグッド。この曲に関してはアドリブがまったく

30

なく、1曲が1つのパターンでできているといってもよい。ドラ ムスはブラシでプレイされている。アクセントの入れ方を微妙に 変化させて、フィル・インに近づけている。ここではタンパリン も重要な位置を占めている。回の2×からはノリガイン2(2)に 変わるが、その立役者がタンパリン。後半の盛り上がりに大いに 役立っている。回のボーカルは、譜面に書いてある3声をメイン に、フェイクしたラインを混ぜて大勢で歌っている感じを出そう 回から登場して回ではソロをとっているオルガンは、コンボ・オ ルガンで、トロンボーンのサウンド。回からはシャッフルになる という芸の細かさはさすがだ。ビートルズの楽しい雰囲気作りが よく出ている曲である。



Copyright 1908 for the World by NOR I HERN SONGS LTD., London, Englai Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only









憂いを秘めた美しいメロディはジョージの最高傑作といえる。 リード・ギターはエリック・クラプトンで、その後のジョージの ギター・プレイに多大な影響を及ぼすことになる。 (四におけ るバッキングは毎回ラフにプレイしているので、書ききれない部 分があるガコードの分散アルペジオだと思ってくれればよい。(四 の6小節目は、短3度のチョーキングが出てくる。ライト・ゲー ジなら問題ないが、1音半のチョーキングがどの程度なのかを、 よく知っておく事が必要。後で、チョーク・アップの状態から始 まるフレーズもあるので、指に覚えさせなければいけない。[Dの 間奏はチョーキングなどのフィンガー・テクニックをすべて大事 に行わなければならない。EDの後奏はビブラートがちゃんとでき ていないと、ソロがつまらないものになってしまうので、1つ1 つの音に魂を込めて、泣いているようなフィーリングをうまく出

34

してほしい。音色はレスリー・トーンで、コーラスのスピードを 上げ、デプスを中ぐらいにするとよい。ベースはダブル・ノート 奏法を大胆に取り入れたプレイだ。リッケンバッカーのトレブリ ーな音色があってこそである。1度5度の和音ではルート音が弱 くならないようにピッキングすること。區の4小節目の2×のF はミス。回はメロディアスなプレイで、よく見ると1、3小節目 のフレーズは下へのカーブ。2、4小節目は上へのカーブとよく 考えられている。ドラムスはシンプルなパターンに徹すること。 ノリはスネアの位置(3拍目)を見ればわかるように16ビート感 覚。1、2拍目のバス・ドラムが気を抜くとハシリがちになるの で注意。オルガンはジョンが弾いていて、回の美しいコード進行 をうまく表現している。

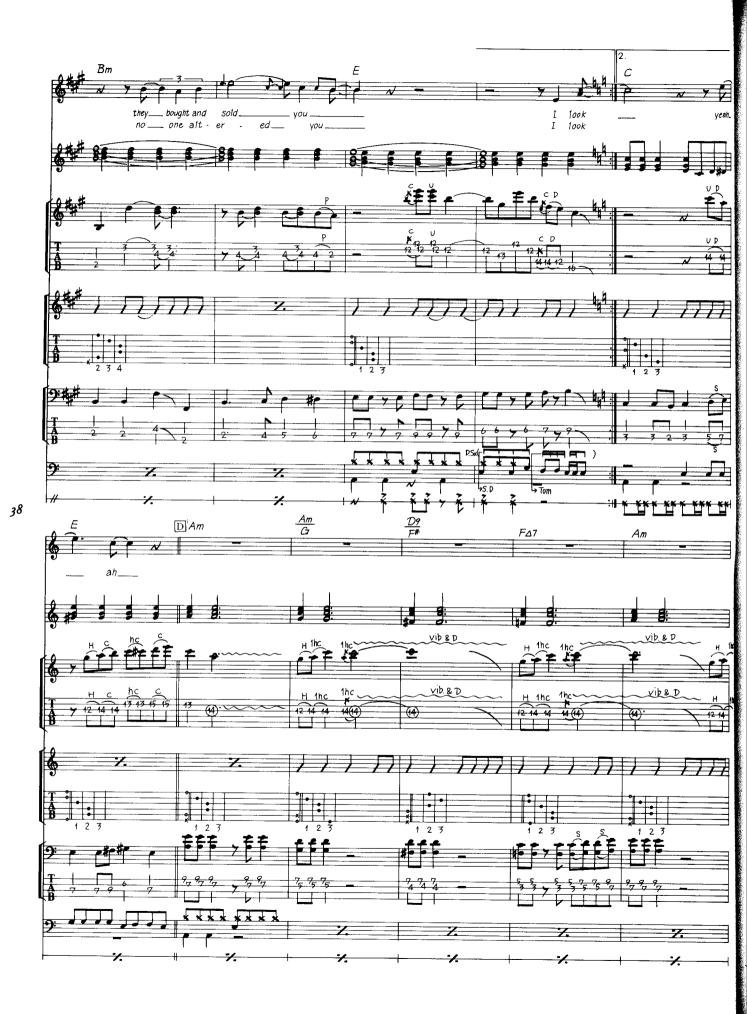


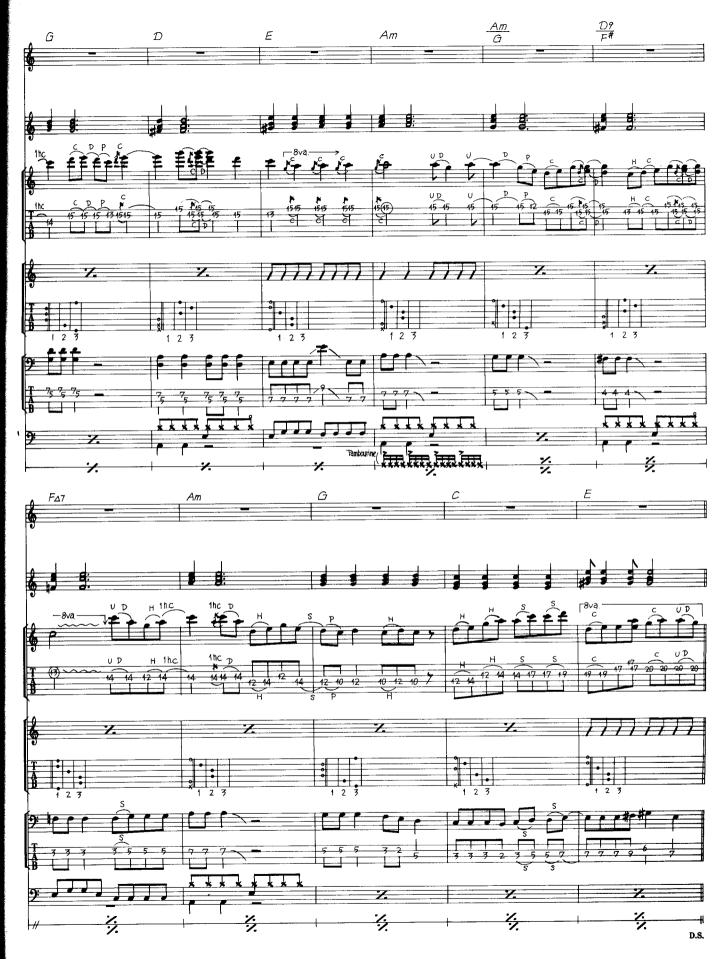
© 1968, 1981 by HARRISONGS LTD. Assigned for Japan to TAIYO MUSIC, INC. Authorized for sale only in Japan.











C





4 I



HAPPINESS IS A WARN GUN ハッビネス・イス・ア・ウォーム・ガン Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

ジョンガ銃で撃たれた事を考えると涙なくしては聴けない曲。 ▲ 回のギターIIはアルペジオで、囚の1、2小節目にあるよう に6th、7thの音を自然なアルペジオの中にうまく取り入れて、 コード・ハーモニーをリードしている。回から出てくるギター I はコード・カッティングであるが、1拍きちんと伸ばす音と、切 る着をしつかり変化させなければならない。回のギター・ソロは、 5、6弦のみを使い、それにフィンガー・テクニックを加味して 作られたフレーズ。低音弦のために、チョーキングは6弦方向に しないで1弦方向(つまり下)にするとよい。回の2~3小節目 にかけての1音半チョーキングはポルタメントでゆっくりと。回 はペースとのユニゾン・リフ。ペースは回ではハネ気味に、回か らは落ち着いたニュアンスでプレイしたい。ドラムスはテンポ・ チェンジする前(回まで)はノーマルな8ビート。フィル・イン 前にハイハット・オープンとなるのが特長。 ②は細かく 8 分音符 を刻まないで、1 拍 3 連のとり方で大きくのることが大切である。 ©のハイハットはダビング。ハイライトは⑤で、他の楽器は<sup>12</sup>で とっているのにドラムスは 4 で叩いていることである。だから歌 を聴いているとスネアとバス・ドラムが妙な位置に入ってくるな、 という感じがする。 <sup>12</sup>×3 小節で<sup>36</sup>、つまり 4 で数えると 4 小節 と<sup>2</sup> 1 小節になる。だから結果的につじつまが合っているわけで ある。この曲に関しては変拍子を意識することなく、歌のメロデ ィを覚えてしまえば、自然に演奏できるようになる。ほとんどり ピート・マークもつかず次から次へと構成が変わっていくこの曲 は、いってみれば組曲のようなもの。譜面にしてみて初めてこの 曲の偉大さがわかった次第である。



Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only

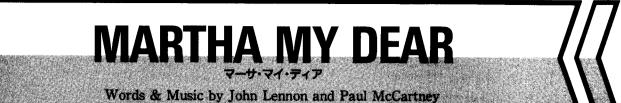










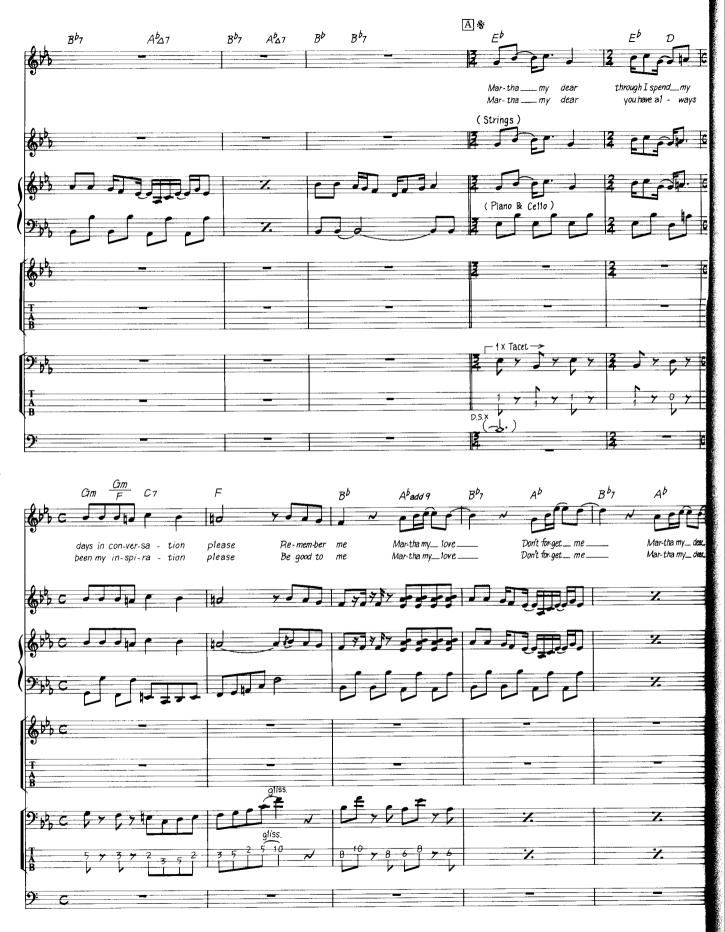


メロディ・メーカー、ポールガバロック的雰囲気を加味して作った曲。それだけに他の曲と違った試みガたくさん見受けられる。 イントロはピアノにより、メロディガ打ち出される。そして次に 切らはポーカルとストリングスガユニゾンでかぶってくる。い が応にも主施律ガ表面に出てくるようになっている。回でリズ ムをリードするのはストリングスとピアノの8分カッティング。 こでピアノの低音部に書いてある音でチューバガ加わり、ベー ス・ラインをも浮き出すようにしている。回からは倍のテンポに 変化したようになり、ドラムも2ビートぼく入ってくる。ギター のかッティングもここから加わってくるが、他の楽器ガキッチリ と決まったフレーズを展開しているので、ギターでラフなニュア

ンスを出している。ペースもここではリズムはハネ気味で×点で 書いてあるミュートの意味をノリの1つと解釈して弾いてみよう。 8分音符もスタカートでプレイするといい。回はプラスの間奏と なっているが、ここでまた面白いリズムが出ている。ドラムスと ハンドクラップが、3~4という拍子が入っているにもかかわらず4~ のアクセントで通していることである。これも4小節のプレイク で解消することになるが、時々リズムをゴリ押しすることがある ので、まったく目が離せない。回の2×はブラスによるオブリガ ートが入ってくる。これは大事に取り入れたい。ピアノを中心に、 ストリングス、ブラスのアンサンブルにかかっている曲なので、 楽器の割り振りに工夫をこらしてみてほしい。



Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only







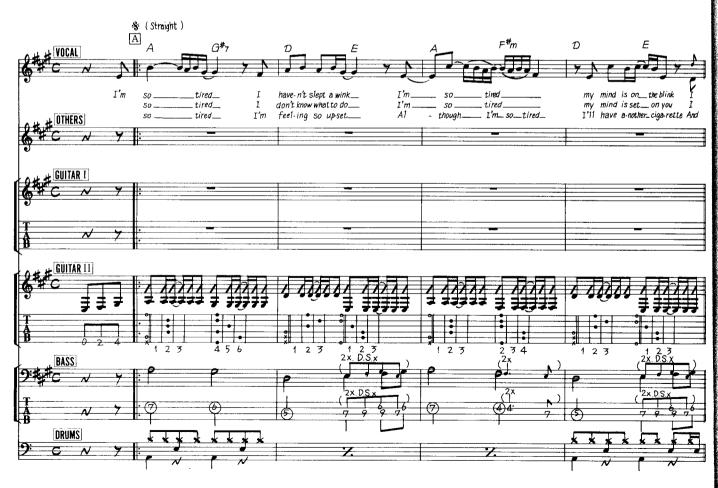




ジョンのけだるい感じがよく出ている曲。ギターは I、IIとも にリズムを出しているにとどまっている。I はディストーション・ サウンドで、静かな囚は後半にカッティングが出てくるのみ。 回 からはロックンロールのパターン。ただしテンポが遅いのでちょ っとこのフレーズの持つ意味とは違った風に表現している。 ノリ を重くすることが第一条件。ギターII はどちらかというとフロン ト・ピックアップを使用しているような甘い音。だから囚のカッ ティングのリズムが細かくても、あまり前面に出てくるような事 がないわけだ。回はギター I とまったく同じである。違う音色の ギターによるダブル録音効果が狙いだ。ベースは珍しく遊びのな いベーシックなプレイに終始している。 回の5小節目のA音への パッシングはフレーズは簡単だが、他の楽器をリードするぐらい ィンパクトの強いもの。2 カッコからオルガンがはいってくるが、

54

単音、あるいは多くて2和音のハーモニーで動きのあるフレーズ を使っている。イメージとしてはストリングスを頭に描いてある はずだ。回からは3和音のハーモニーで、ギターで追えなかった 分を補っている。回からうすくアコースティック・ピアノもはい ってきて、5小節目は16分弾きとなる。ここで面白いのは、他の 楽器が完全ブレイクしているコーダの1、3、5小節目に低音部 の音を残していること。ちょっと理解に苦しむところだ。コード 進行についてだが、回の1小節目、3、4拍のG<sup>‡</sup>,はハッとさせら れる。5小節目のEaugも同じ理由から気になる存在。前者では ペース音(A→G<sup>‡</sup>)、後者はハーモニーのトップ音(C<sup>‡</sup>→C)の半 音進行が、どちらもいかしている。やはりどの曲にもピリッと辛 みをきかせているところはさすがである。



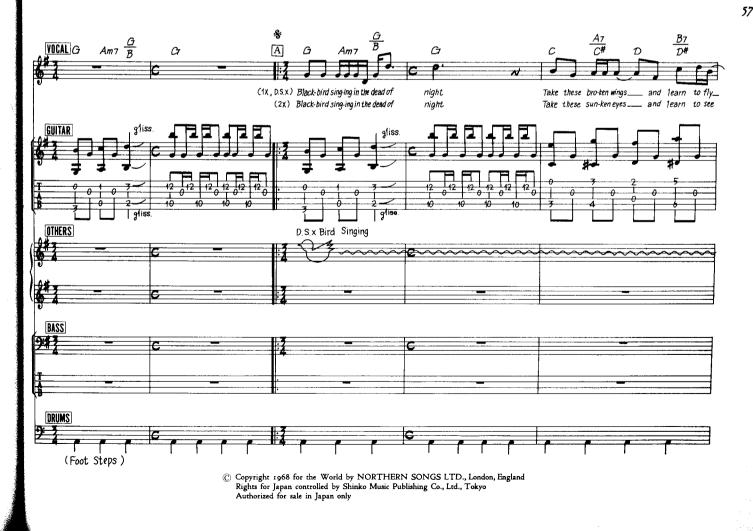
(C) Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only





## BLACKBIRD フラックバード Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

ポールの弾き語りによる曲。ジョンとジョージは不参加。まず この曲の唯一のバッキングであるアコースティック・ギターの奏 法について説明しよう。タブ譜を見てわかる通り、押さえ方、運 指等に難しいところはまったくない。だからこのバッキングの特 長をよく把握してから取りかかるとマスターが速いと思う。まず 基本的なハーモニーは2和音によるものである。そして、その2 和音を押さえた後に必ず3弦開放Gの音がはいるということ。親 指でピッキングするベース音はルートの音をとっている、とって いないは別として、ラインガパターン化されているということ。 あとはトップの音の動きを、先に譜面で見て単音でとっておくと わかりやすい。1小節目から2小節目にかけてはフレットが飛ぶ が、1拍間があるので落ち着いて10フレットまで持っていくこと。 2小節目は同じG音でも5弦10フレットと3弦開放がある。響き の違いに注目したい。回の1小節目、F→B<sup>b</sup>までルートが落ちて くるが、2弦と5弦のフレットがすべて同間隔で降りてくるわけ ではないので、気を付けなければならない。コーダの1小節目、 囚の7小節目とメロディが同じだが、コードを変化させているの が憎いところ。4分でリズムを刻んでいるのは、床を靴で踏み鳴 らす音。鳥のさえずりが回の2カッコ、一度ポーズになったとこ ろから流れてくる。S.E.として使用すれば、気分が盛り上がって きて、演奏にもいい影響が出るはずだ。この曲の性格上、ギター をマスターしたら、弾き語りでプレイするのが最上の方法だと思 う。



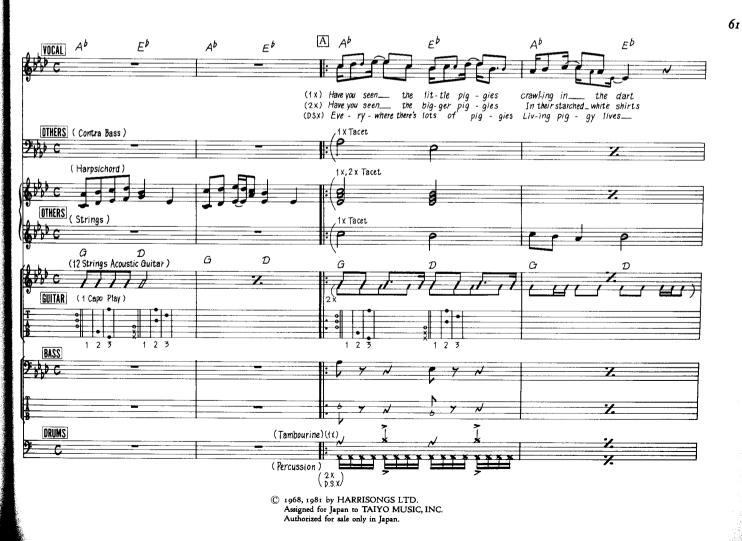








バーフシュートのサウノトカこても記録的なデンバー。人間を 「家に見立てたジョージの風刺も見事。時々はいる豚の鳴き声がこ っけいだ。この曲はドラムがはいっていない。その代わりにリズ ムをキープしているのはタンバリンで、1×の囚を除いては16ビ ート・カッティングに2拍、4拍のアクセントを入れる形になっ ている。ベースもしっかりとルートをきざんでいる。オブリガー トはハープシコード、ストリングス類にまかせてあるのでベーシ ックなプレイに徹しているわけだ。それではまずコントラバスか ら説明しよう。囚はコードのルート音をテヌートで、回はスタカ ート気味になっている。囚の2カッコ、回の4小節目では他をリ ードするフィル・インがはいっている。とくに回の4小節目は16 分休符をうまく利用してリズミカルにしなければならない。叵の 間奏はハープシコードの裏メロ的なものだが、大事にプレイした い。ハープシコードは囚の1カッコ、2カッコなどのフレーズは オクターブでプレイすると厚みが出てくる。やはりメインは囚の 間奏。ところが実際弾いてみると、下の音がステイしているので、 音が細かいわりには簡単に弾ける。ハープシコードの場合、その 音色だけで存在感を作ってしまうので、これで十分なのである。 ストリングス・アンサンブルは、コントラバス、ハープシコード のハーモニー補佐と考えればよい。ギターは1カポでプレイして いる。これによりポジションは非常に楽になっている。D.S.後3 番のボーカルはオペラ歌唱法によるもの。大勢で歌うと雰囲気が 出てくる。3番のみコード・ハーモニーのルート音による低音パ ート・コーラスがはいっているので、聴いてみてほしい。エンデ ィングの2小節でキーがAに変わっているのも風変わりなアレン ジである。











な音になる。回の1×と、回のD.S.×に出てくるサウンドだ。オ ブリガートで登場してくるのガハーモニカ。名手ジョンガプレイ しているが、ここでは3度の和音のものが中心。ブルースよりも フォークに近いフレーズだ。回の2小節目から出てくるのはアコ ーディオン。フレーズはそれほど目立たないが、楽器をおしみな く使用するラグタイム・バンドの雰囲気を狙っているようだ。D. S.×の回の1小節前からコーラスが出てくるが、これも変化を強 調していて楽しい。回のホンキートンク・ピアノは、トリルをし っかりプレイすると似た感じになる。ホンキートンク・ピアノが 手にはいらなければ2音源のシンセサイザーの音程をデチューン させてミックスさせれば近いサウンドになる。リバープも多少か けるといいと思う。

65



© Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only











## DON'T PASS ME BY

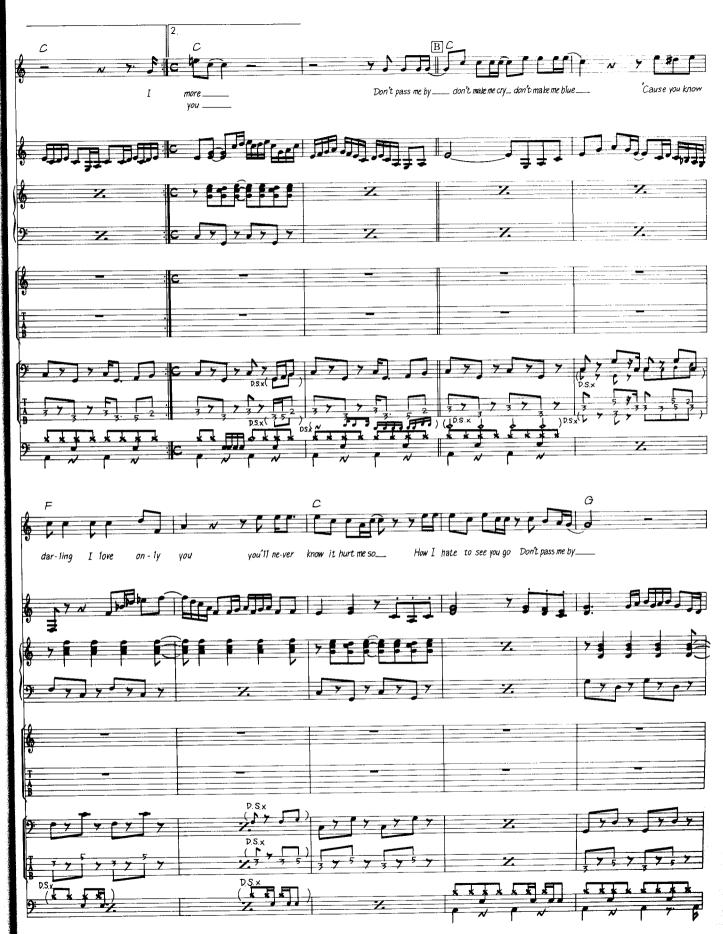
Words & Music by Richard Starkey

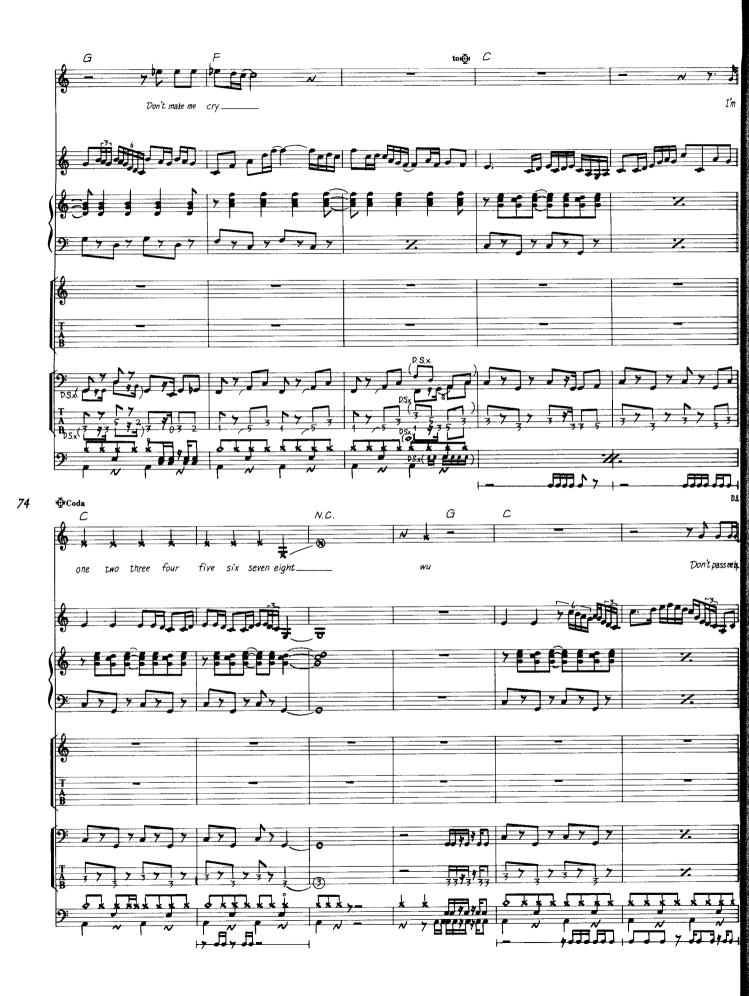
リンゴ初の単独作。彼得意のカントリー&ウエスタン・ナンバー。この曲にはギターははいっていなくて、ハーモニーを出しているメイン楽器はエレクトリック・ピアノである。なんとリンゴガ自分で弾いている。単純なリフであるが、さすがにリズムはバッチリきまっている。イントロの2小節はフリー・テンポ。コードCのバッキングの時だけトップ音が動くと思えばいい。自分の曲だけに、ドラムスも張り切っている。ペーシックなフレーズの他にバスタムをダビングしてあるのである。ここでは2拍以上のフレーズを書いておいたが、実際はいろんなところにはいっているので、レコードをよく聴いてほしい。スネアも16分音符を多用してアクセントに変化をつけている。16ビートのフィル・インは

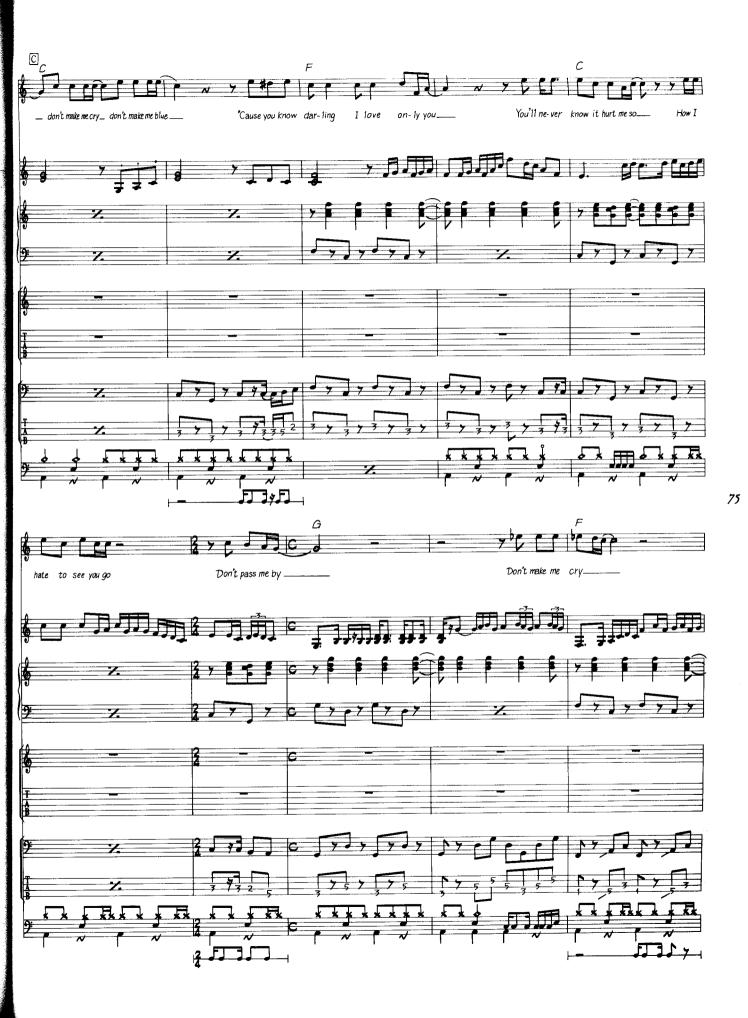
リズムガハネているので注意。イントロの3小節目などのスネア の音色を聴くと、ゲート・リバーブがかかったような音で、これ も当時としては画期的なものだといえる。オブリガートはフィド ルガ担当。これは囚の1カッコから最後までずっと続いている。 したがってフレーズよりもフィーリングが重視されるというわけ だ。譜面に書いてあるのは、ほとんど単音だが、特に長目の音符 の時に4度違う音を異弦でからめて弾くとフィドル独得のニュア ンスが出てくる。エンディングでは4小節ほどソロが出てくる。 リズムは16分音符ではドラムスと同じようにハネ気味で弾くこと。 ほのぼのとした雰囲気が出るようになるまでリラックスして演奏 できるかが、この曲のポイントである。













Fade Out

Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

ポールの好きなお遊び的ワンマン・バンド・プレイによる曲。 10小節のブルース進行のナンバーで、歌詩はほとんどタイトルを くり返しているだけというものだ。2カッコの2小節目からファ ルセットのハイトーンに移り、3コーラス目はボーカルガフェイ クする形になっている。ベースは8ビート・プレイに専念。コー ドの移り変わりに囚の9~10小節のように半音進行のパッシング・ ノートを入れる程度。ただし3×はボーカルが盛り上がっていく と同時にベースも動き始めている。この辺の対応はさすがにボー かしスト&ベーシストのなせる技といえる。 囚の2、3 小節目は オクターブをうまく使ったランニングだ。ドラムスはイントロの みブラシ・プレイ。 (A前の1小節のブレイクでスティックに持ち

換えるといい。スネアのフィル・インはやはりリンゴの持ち味が しっかり出ていて、ハネ気味のリズムになっている。3カッコの エンディングはクラッシュ・シンバルではなくて、ハイハット・ オープンを伸ばしているという変わった締めくくりである。ピア ノは8分弾きで、ポールが弾いている。音域は低いところだが、 うまく7thの音を混ぜている。何といっても唯一のハーモニー楽 器だから、しっかり押さえたい。ギターはフロント・ピックアッ プを使った甘い音で、アルペジオ・スタイル。タブ譜を見てポジ ションを覚えてしまえば、ごく簡単なもの。コード・チェンジの 時に、下からのスライドを多用して、なめらかさを出している。





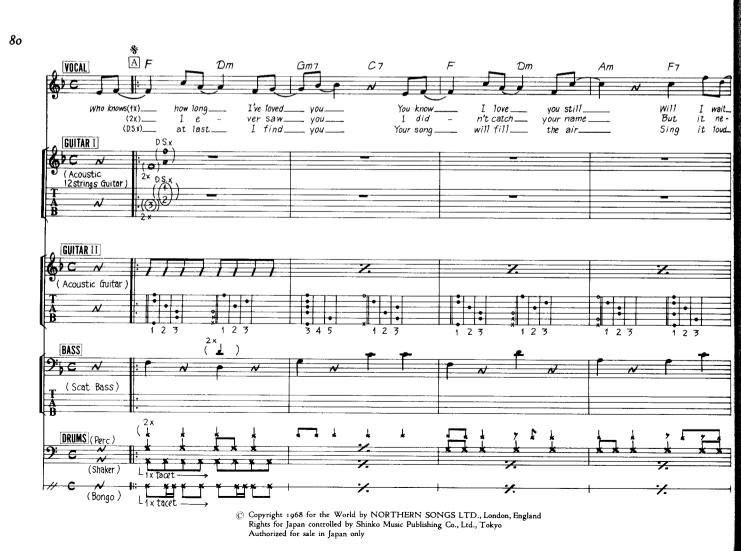


<u>7</u>8





美しいメロディを持ったシンプルなラブ・バラード。エレクト リック楽器を一切使用しないアコースティックな響きが新鮮であ る。ペースはポールのスキャット・ベースで、これがいい味を出 している。もちろんダブル録音である。現在の機材を使用するな ら、スキャット・ベースをサンプリングすればOK。この時に軽 いビブラートをつけておくといい。やはりアンサンブルを考えた らこの方法がベストだと思う。実際演奏すると、レコーディング 以外では低音ハーモニーは埋もれてしまうからだ。それにしても 囚の1×の1小節目3拍目のD音は低過ぎる。この部分はおそら くテープ操作があったのではないかと思われる。ギターIは12弦 で、オブリガート専門。囚の1カッコ、2カッコはスピード感を 伴っていることが第一条件。それとフレーズが微妙に違っているので注意したい。2 カッコのフレーズはコードB<sup>b</sup>へのアプローチを完全に表現している。回の4小節目も同じ。回の1、2小節目は2弦4フレットがちょっと遠いので指をちゃんと開かないと強くことはできない。その他は単音弾きなので、大事に弾けば全く問題ない。ギターIIは最初から最後まで8ビート・カッティングをプレイしている。コーダの1~3小節目に小さいリズム・セクションがあるが、これも合わせなくていい。ドラムスははいっていないので、リム・ショットのリズムがメイン。回からボンゴとシェイカーが加わってくる。ボンゴのリズムはちょっと細かいので、バランスは小さ目でよいだろう。







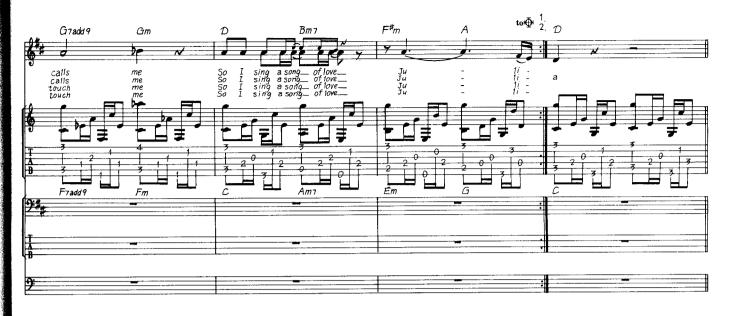


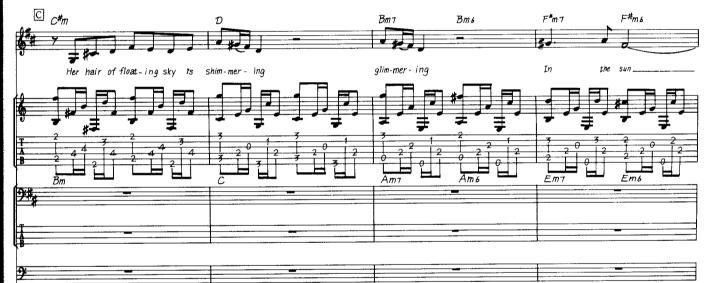


回の1×に出て来るOcean Childとはジョンの造語で、洋子を ストレートに英訳したものであるのは、あまりにも有名。バッキ ングはアコースティック・ギターのアルペジオのみ。囚はこの譜 面通り1本であるが、回からはもう1本はいってくる。ただし全 く同じプレイをしているので問題はないと思う。2カポ・プレイ なのでキーはCとなる。カポをしても回ではバー・コードがどう しても出てしまうので、キチンと押さえないと音がとぎれてしま うので注意。コード進行もひねりをきかせてあって、国の部分が面 白い。4小節目の1、2拍目が9thを入れたメジャーで3、4拍 目でマイナーになるのはちょっと聴き流しただけではコピーでき ない。〇の〇<sup>4</sup>mもサビの頭としては変わっている。美しいのは〇 の3、4、5小節目のトップの動き、思わず弾いていて武者震い が起きてきそうな感じだ。ジョン以外は不参加というこの曲は、 ジョンの気持ちが素直に伝わってくる住曲といえよう。

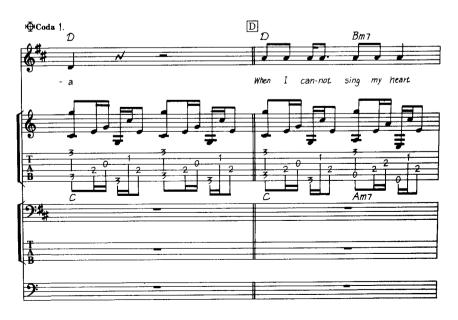


© Copyright 1968 for the World by NORTHERN SONGS LTD., London, England Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only



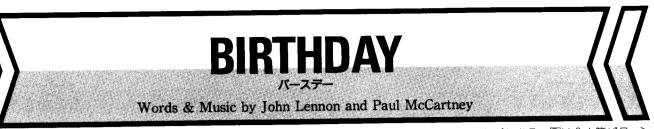






D.S. 1.





ブルース形式のハード・ロック。イントロ1小節目から出てく るギターIとペースのリフガこの曲のポイントとなっている。こ れガカッコよくキマらないと、成立しないような曲だ。ギターは 2拍目のスライドと3拍目のハーフ・チョーキングをうまく表現 しなければならない。特にチョーキングは半音なので上がり過ぎ ないように注意。またスピーディにすることによって、チョーキ ングのニュアンスを殺すことも必要。ペースは何のテクニックも 使わずにリフを表現するだけ。ただしギターガ休んでいる偶数小 節も用じフレーズを弾いているので気を抜くとコケてしまうので、 がッツガいる。ギターIIはどういうわけカユニゾンではなく3、 4拍目の音をルート音でスティしている。だからよく聴くと変わ ったハーモニーになっていることがわかる。回は2小節パターンのリフ。これはベース・ラインから先に考えたものであろう。8 ~9小節目の半音進行も9小節の昔のコードを見ると納得できる。 2カッコの4小節は独立したリフ。あえてコード・ネームを付け るとしたらArといったところか。ピアノはポールが弾いていて、 ギターIのリフの合いの手となっているリピート後のイントロ部 分が間奏と思ってもらえばいい。回のオルガンはジョンが弾いて いると思われる。3、5、7小節目の女性コーラスはヨーコと当 時ジョージの奥様であったパティによるもの。とにかくこの曲は リフの合作でできているようなものだから、そのあたりから集中 的に攻めるのが得策である。

87



Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo Authorized for sale in Japan only











## THE BEATLES

BACK IN THE U.S.S.R. DEAR PRUDENCE GLASS ONION OB-LA-DI, OB-LA-DA WILD HONEY PIE THE CONTINUING STORY OF BUNGALOW BILL. WHILE MY GUITAR GENTLY WEEPS HAPPINESS IS A WARM GUN MARTHA MY DEAR I'M SO TIRED BLACKBIRD PIGGIES ROCKY PACCOON DON'T PASS ME BY WHY DON'T WE DO I'N I'HE ROAD I WILL JULIA BIRTHDAY YER BLUES MOTHER NATURE'S SON EVERYBODY'S GOT SOMETHING TO HIDE EXCEPT ME AND MY MONKEY SEXY SADIE HELTER SKELTER LONG LONG DONG REVOLUTION NO.1 HONEY PIE SAVOY TRUFFLE CRY BABY CRY GOOD NIGHT CP25-5329-30 The BEATLES

## "THE BEATLES"



★定価2,266円(本体2,200円) ISBN4-401-34412-X C0073 P2266E